

平成 29 年度 第 1 回評議員会議事録

- ◇ 期 日 平成 29 年 4 月 23 日（日） 13:30～15:30
- ◇ 場 所 アスティ 45 ビル 8 階会議室
- ◇ 出席数 評議員 39 名の内、出席 23 名、欠席 16 名（委任状 14 名提出）
- ◇ 議 事

議事に先立ち、札幌支部及び旭川支部で 2 名ずつの評議委員が交代することが報告された。新評議員から挨拶があった。

1. 平成 28 年度事業報告について

- ・ 各委員会の委員長から「平成 28 年度 事業報告書並びに決算報告書」に基づき、各委員会の活動報告があった。
- ・ セレクションコミッティ・強化委員会より、いわて国体において成年男子が国体での勝利を手にしたことと、少年男子、女子ともに良い成果があり、北海道体育協会から賛辞の言葉があったことが報告された。
- ・ レフリー委員会より、実働 B 級レフリーや若手レフリーの絶対数不足、北海道大会以外の大会でもチーム帯同レフリー制度の導入について要望していくことなどについて報告された。
- ・ 競技委員会より、北海道選手権大会について、大学チームが好成績を挙げていること、野幌グラウンドが 1 面しか使えない状況であり関係機関と改善に向け交渉・協議を継続して行っていることが報告された。また、「平成 28 年度 事業報告書並びに決算報告書」の 33 ページに掲載されている北海道選手権大会試合結果において、釧路ラグー、札幌クラブフラテが抽選勝となったが表示が間違っていることが説明された。
- ・ 普及育成委員会より、道内大会や全国大会の出場の増加で、コーチなどの費用負担が多くなっていることが報告された。
- ・ 高校委員会より、国体選手の減少により予選の大会方式の変更などを行っていることが報告された。
- ・ 大学委員会より、拓殖大学北海道短期大学が復活したことが報告されたが、札幌圏以外の大学が各種大会に出てきてほしいとの要望があった。
- ・ 社会人・クラブ委員会より、チームのフロントロー、コーチなどのスタッフ及びレフリーの不足が報告された。
- ・ 女子委員会より、今年度の目標を国体で勝利することとしたが、6 位入賞を果たしたことが報告された。

2. 平成 28 年度決算報告について

- ・ 会計担当理事から「平成 28 年度 事業報告書並びに決算報告書」に基づき、平成 28 年度収支報告について説明があった。

- ・当初は単年度収支を 43 万円程度の赤字となる予算を組んだが、最終的には 40 万円の黒字決算となったことが報告された。
- ・有料試合収支決算では、春の招待試合が 90 万程度の赤字、トップリーグは 50 万円程度の黒字、秋の関東大学対抗戦では 90 万円程度の黒字となり、有料試合全体のトータルでは 50 万程度の収益があり計画通りの結果となったことが報告された。
- ・北海道新聞社より、女子セブンズのジャージ購入補助金として、50 万円の収入があったことが報告された。
- ・高等学校南北選手権大会テレビ放映の特別会計では、時期繰越金が 52 万円となったが、次期のテレビ放映は、高体連が負担して毎日放送が行うことになっており、費用負担がないことが報告された。
- ・会計監事から会計監査報告があり、会計処理が適性に行われていることが報告され、平成 28 年度事業報告および収支決算が承認された。

3. 平成 29 年度事業予算について

- ・会計担当理事より、「平成 29 年度収支予算書」に基づき、平成 29 年度事業予算について説明があった。
- ・各委員会からの予算申請は前年度の予算編成を踏まえていないものもあり、前年度予算を上限とする予算査定とした。その結果、54 万円程度の黒字予想となる予算とした。
- ・ドクターバック 20 万円と女子道具入れ 5 万円を計上したことが報告された。
- ・平成 29 年度事業予算について承認された。

4. 平成 29 年度事業計画について

- ・庶務担当理事から、各種大会及び講習会・研修会などの事業計画について説明があった。
- ・7 月 1 日のラグビーフェスティバルにおいて、第 3 回とよひらラグビー体験会を実施することが説明された。
- ・トップリーグ 2017-2018 の月寒ラグビー場での開催日が 9 月 2 日（土）に変更されたことが報告された。
- ・第 2 回ゴールデンオールディーズ委員会を 9 月 1 日に変更することが報告された。
- ・平成 29 年度事業が承認された。

5. 理事長指名理事改選について

- ・津軽副理事長より、理事選出に係る規約の改定について説明があった。規約改定においては、本文は改定せずに細則を改定するものとし、細則の文章が確認され承認された。
- ・規約改定の承認を経て、4 月 15 日に開催された新理事長若しくは新理事長候補の選出会議の結果が報告され、新理事長候補に田尻稲雄氏が選出されたことが報告された。

- ・ 新理事長候補の田尻稲雄氏を理事として推薦し承認された。
- ・ 田尻稲雄氏が理事として承認されたことを受け、理事長を選出するために田尻氏と支部選出理事による臨時理事会が別室で開かれ、新理事長に田尻稲雄氏が選出されたことが報告された。
- ・ 田尻新理事長から挨拶があった。理事長氏名理事を早急に選出して5月中には評議員会に提出することが表明された。

6. 春の招待試合帝京大学対明治大学戦（6月4日開催）について

- ・ 有料試合事務局の会計理事より、チケットの販売促進について支部の協力が要請された。
- ・ 春の大学招待試合の目的として、北海道ではトップレベルのゲームを観る機会が非常に少ないこと、ミニ・ジュニア世代への普及育成という観点、そしてRWC2019盛り上げていくためのアピールという目的があり、この事業は展開していかなければならないとの説明があった。
- ・ チケット販売については、理事、評議員、支部、チームに積極的に協力してもらい販売促進を行うことが確認された。

7. RWC2019 情報

- ・ RWC2019 担当理事より、RWC2019 に係る情報の説明があった。
- ・ 公認チームキャンプ地の視察が、4月17日から4月21日の日程で帯広市、中標津町、北見市、小樽市、札幌市、北海道・江別市で行われたことが報告された。
- ・ 参加チームのプール組分け抽選会を5月10日に京都迎賓館で開催されることが報告された。
- ・ RWC2019 組織委員会から3月16日に発表された新・大会ビジョン「絆 協創 そして前へ」について説明があった。

8. その他

- ・ 小樽支部評議員より、春の招待試合が赤字となっているが、今後どのようにして継続していくか質問があった。
- ・ 有料試合事務局の会計担当理事より、春の招待試合の意義と対応について説明があった。
- ・ 春の大学招待試合は北海道ではトップレベルのゲームを観る機会が非常に少ないこと、ミニ・ジュニア世代への普及育成という観点からも、この事業は展開していかなければならない。また、RWC2019 を盛り上げていくためのアピールということ、更にアフターマッチファンクションについても一般の方々に参加してもらって普及啓蒙を図っている。
- ・ これまでも赤字となる場合もあるが、理念を持って実施してきており、RWC2019 までは頑張ってやっていく方針である。理念に沿って考えて行かなければならない。単に赤字だということだけで切り捨てるのではなく、北海道協会全員が責任を持

って対応しなければならない。

- チケット販売については、理事、評議員、支部、チームに積極的な協力要請し販売促進して行くことが説明された。

以上